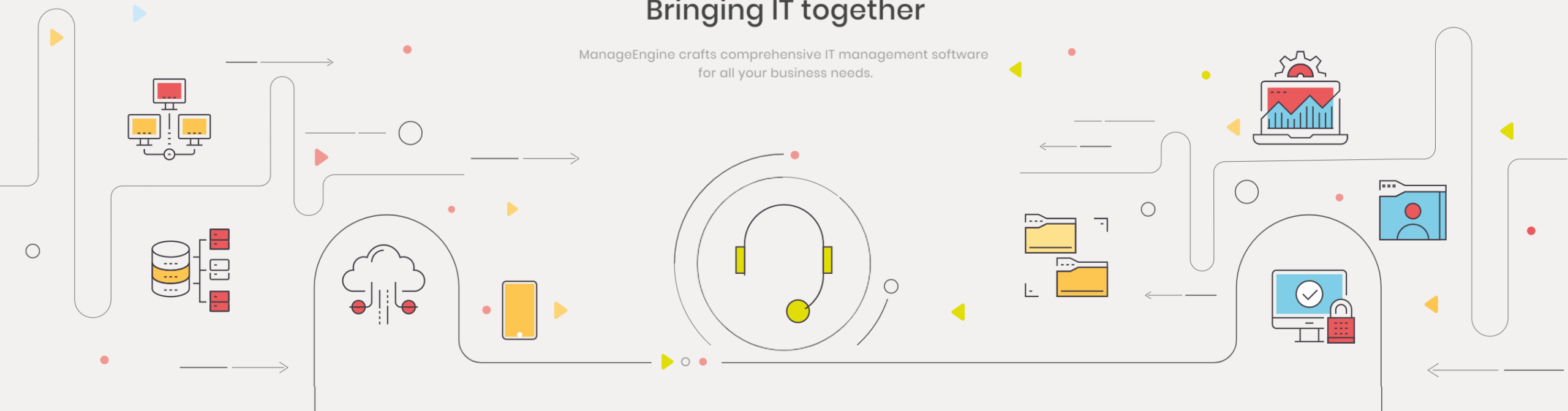


Bringing IT together

ManageEngine crafts comprehensive IT management software
for all your business needs.



サーバー・PC・モバイルデバイスを一元管理する

Endpoint Central 製品紹介セミナー

ゾーホージャパン株式会社

はじめに

本動画でお伝えすること

- ✓ 統合エンドポイント管理ツール「Endpoint Central」の特徴、主要機能で解決できる課題

※統合エンドポイント管理（UEM）ツールとは、PC、モバイルデバイスなどの様々なデバイスを単一の製品、コンソールで一元管理できる製品のこと

視聴をおすすめする方

- ✓ 情報システム部門にて、**PCやモバイルデバイスの管理を担当**している方
- ✓ **IT資産管理ツール、統合エンドポイント管理ツールの導入**に関心がある方
- ✓ 必要十分な機能を**低価格から利用できる製品**を探している方
- ✓ 手軽に導入できて、**テレワーク端末も簡単に管理**できる製品を探している方

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します




アジェンダ

- 1 IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題
- 2 Endpoint Centralの3つの特徴
- 3 Endpoint Centralの主要機能の紹介
- 4 参考情報




Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題

IT資産管理台帳を整備できていない

-  **ハードウェア**
組織で保有しているPCの台数を正確に記録できていない
-  **ソフトウェア**
社員がPCにインストールしているソフトウェアを把握できていない
-  **ライセンス**
購入数と利用実態を適切に管理しておらず、コンプライアンス違反の恐れがある

セキュリティ対策を実施できていない

-  **パッチ管理**
古いバージョンのソフトウェアを使い続けており、脆弱性対策を行っていない
-  **USB制御**
USBデバイスを使って、社員が組織の機密情報を不正に持ち出せる状態になっている
-  **紛失盗難対策**
モバイル端末を紛失した場合、データを遠隔から削除できる仕組みがない

Endpoint Centralなら、これらの課題をすべて解決できます

アジェンダ

- 1 IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題
- 2 Endpoint Centralの3つの特徴
- 3 Endpoint Centralの主要機能の紹介
- 4 参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

Endpoint Centralの3つの特徴



**オンプレミス版とクラウド版から
利用形態を選べる**



**サーバー・クライアントPC・
モバイル端末を一元管理**



**業務効率化・セキュリティ強化を
低価格で実現**

3つの特徴について順番に解説します

特徴1 | オンプレミス版・クラウド版から利用形態を選べる

社内サーバー・ネットワーク内で利用したいなら オンプレミス版

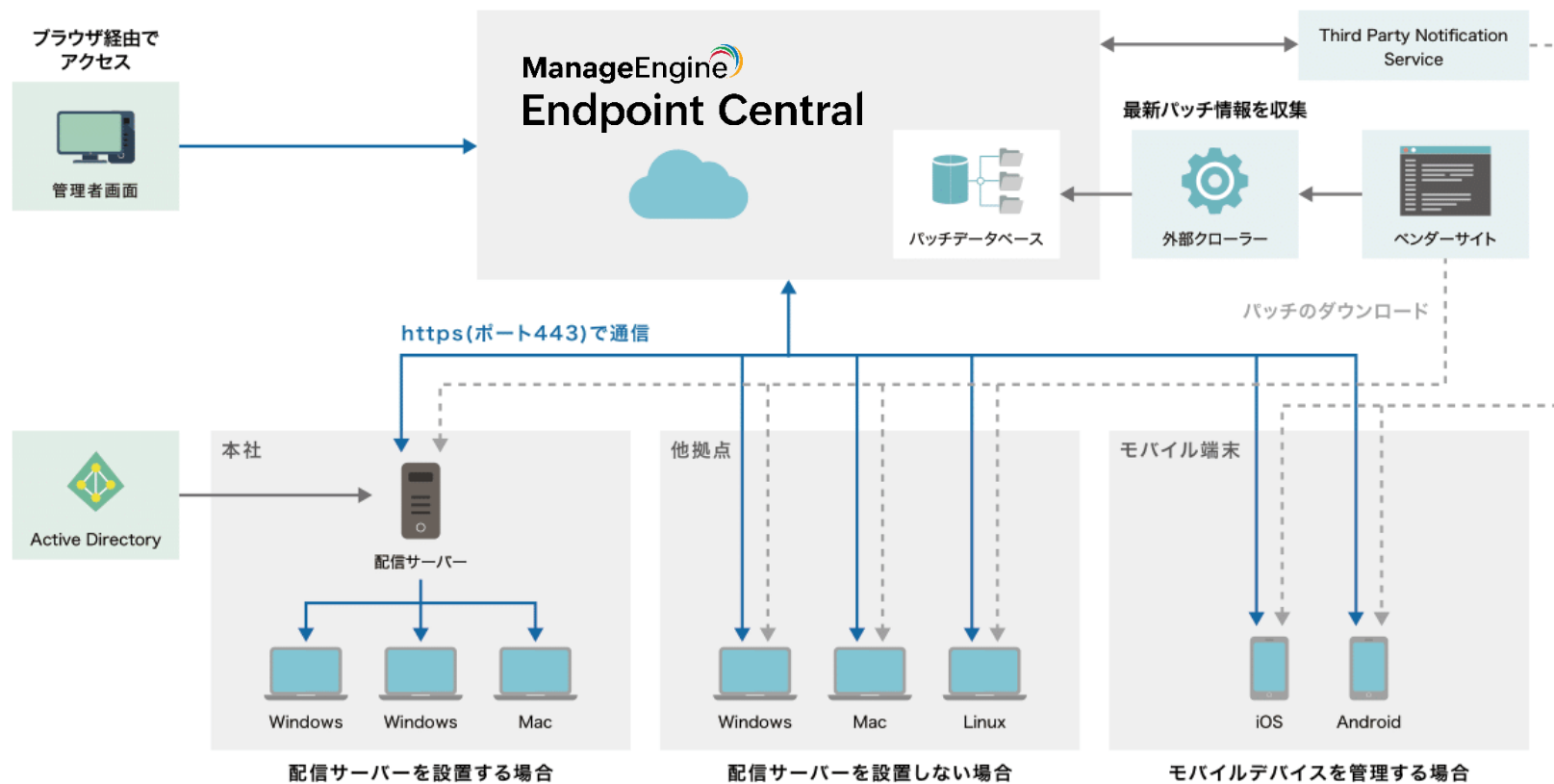
- ✓ グローバルでは**2005年から販売開始**しており、世界3万社以上の導入実績をもつ
- ✓ データベースとWebサーバーは**バンドル済み**のパッケージ製品であるため、インストールを含め1時間程度で使い始められる

テレワーク端末も手軽に管理したいなら クラウド版（SaaS版）

- ✓ 働き方の多様化、クラウドシフトで生まれた需要に応えるため、**2020年から販売開始**
- ✓ **サーバーを構築する必要がない**ため、手軽に導入できる
- ✓ 社内ネットワークに接続しない**テレワーク端末も、インターネット経由で管理**できる

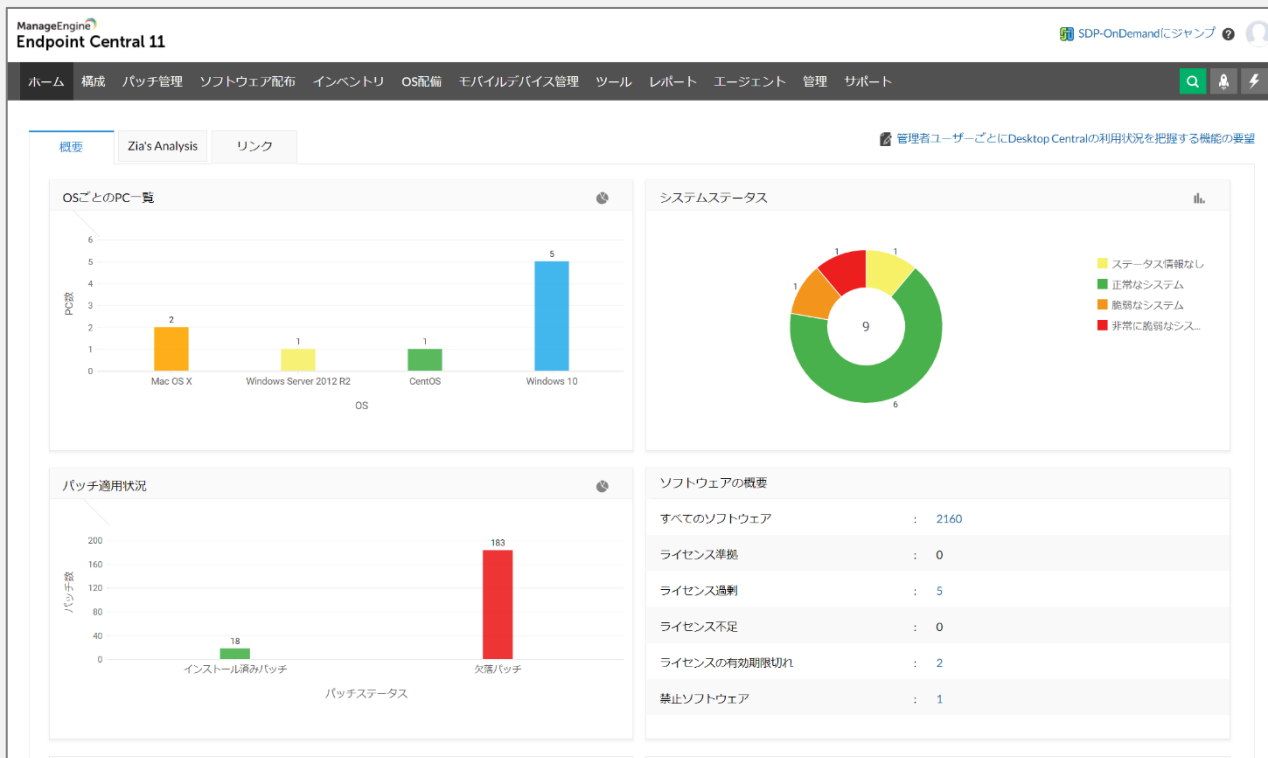
近年はテレワーク促進の影響を受けて、クラウド版の導入数が増加しています

クラウド版のアーキテクチャイメージ



テレワーク中の端末管理にも、VPN接続は必要ありません

特徴2 | サーバー・PC・モバイルデバイスを一元管理できる



サーバー

Windows Server, Linux



クライアントPC

Windows, macOS, Linux












モバイルデバイス

iOS, Android, iPadOS, ChromeOSなど

※Endpoint Centralで管理できるOSの詳細は「[動作環境・システム要件](#)」ページで確認できます

様々なOSのデバイスを1つのコンソールでまとめて管理できます

特徴3 | 情シス業務効率化・セキュリティ強化を低価格で実現できる

 パッチ管理	 モバイルデバイス管理	 リモートコントロール
 ソフトウェア配布	 電源管理	 USB制御
 インベントリ管理	 システムマネージャー	 スクリプト配布

最も安価なライセンスなら **年間21.8万円～** すべての機能を利用可能
=コンピューター1台あたりの月額費用は約365円

※50台のコンピューターを管理する場合の月間換算費用。詳細は「[価格](#)」ページで確認できます

Endpoint Centralは、コストパフォーマンスの高い製品です

アジェンダ

- 1 IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題
- 2 Endpoint Centralの3つの特徴
- 3 Endpoint Centralの主要機能の紹介
- 4 参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

本日より紹介する機能

1

インベントリ管理

IT資産管理の効率化

ハードウェア・ソフトウェアの最新情報を自動収集

2

パッチ管理

セキュリティの強化

脆弱性検出・パッチ適用を自動化

3

ソフトウェア配布

セキュリティの強化

ソフトウェアを一括管理・セルフサービスポータルを活用

4

USB制御

セキュリティの強化

利用できるUSBデバイスを制限

5

構成

セキュリティの強化

端末に同一の設定を一括適用

6

リモートコントロール

情シス業務の効率化

円滑なトラブルシューティングを遠隔から実施

7

レポート

情シス業務の効率化

監査や会議に使えるレポートをワンクリックで作成

8

モバイルデバイス管理

IT資産管理の効率化

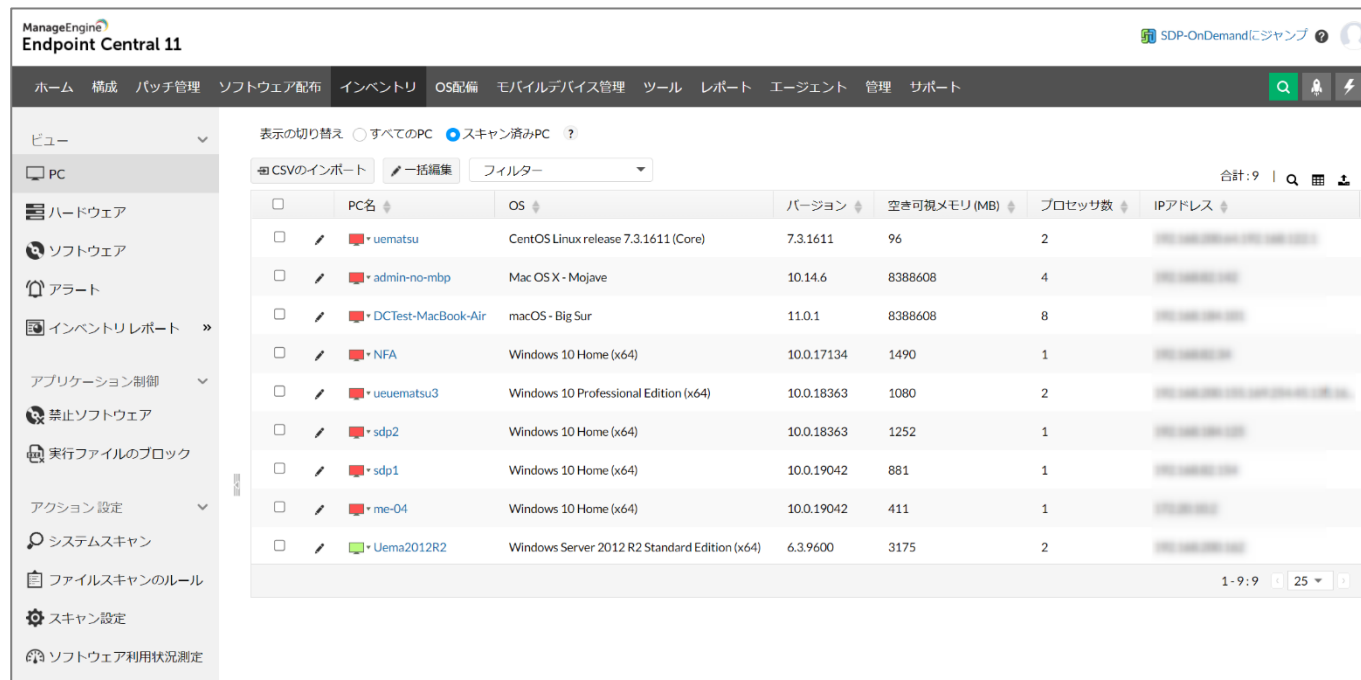
同一コンソールでMDMも可

セキュリティの強化

※オンプレミス版とクラウド版の機能差異については、[こちらのWebページ](#)で確認できます

Endpoint Centralの主要機能について順番に解説します

「表計算シートでの資産管理台帳作成に手間がかかる」「台帳の更新作業ができておらず正確な情報が不明」とお悩みではありませんか？
Endpoint Centralは、端末のインベントリ情報を自動で収集し、正確なハードウェア・ソフトウェア台帳の作成を強力にサポートします。



PC名	OS	バージョン	空き可視メモリ (MB)	プロセッサ数	IPアドレス
uematsu	CentOS Linux release 7.3.1611 (Core)	7.3.1611	96	2	
admin-no-mbp	Mac OS X - Mojave	10.14.6	8388608	4	
DCTest-MacBook-Air	macOS - Big Sur	11.0.1	8388608	8	
NFA	Windows 10 Home (x64)	10.0.17134	1490	1	
ueuematsu3	Windows 10 Professional Edition (x64)	10.0.18363	1080	2	
sdp2	Windows 10 Home (x64)	10.0.18363	1252	1	
sdp1	Windows 10 Home (x64)	10.0.19042	881	1	
me-04	Windows 10 Home (x64)	10.0.19042	411	1	
Uema2012R2	Windows Server 2012 R2 Standard Edition (x64)	6.3.9600	3175	2	

取得できる情報の一例

ハードウェア

CPU型番, メモリ容量, USB使用履歴

ソフトウェア

インストールされているOSやアプリケーションの
名称, バージョン

※取得した情報は、
PDF, CSV, XLS形式で出力することも可能

端末にインストールされたエージェントから、詳細で正確な情報を収集します

機能1 | インベントリ管理と一緒にライセンス管理もできる

IT資産管理の効率化

Endpoint Centralのインベントリ管理機能では、ライセンス管理も実施できます。
組織で保有しているライセンスの数量と利用実態を管理することで、ライセンスの過剰な保有やコンプライアンス違反を防ぎます。

ライセンスの管理 > ライセンス詳細

ライセンス詳細

総ライセンス数、ライセンスキー、購入日、と関連するコンピューターなどのソフトウェアライセンス情報の詳細を閲覧します。 [PDFをエクスポート](#)

ソフトウェア情報		ライセンス詳細	
ソフトウェア名	: Adobe Acrobat Reader DC - Japanese	ライセンスの所有者	: Zoho Japan
バージョン	: 22.001.20117	購入されたコピー	: 5
メーカー	: Adobe Systems Incorporated	管理中のインストール数	: 1
アクセスタイプ	: 未割当て	ネットワーク上のインストール数	: 1
エディションの種類	: --	対応ステータス	: ライセンス過剰
		関連付けたPC	: 2

購入ライセンス

+ ライセンスの追加

合計: 1 | 🔍 📄

ライセンス名	ライセンス	購入済み	購入日	有効期限日	アクション	関連付けたPC
Adobe Acrobat Reader DC	--	5	13, 2022	12 30, 2022	⋮	2

1 - 1: 1 | 25 | 📄

ライセンス管理で実施できること

基本情報の登録

- ✓ 保有しているライセンスの名称, 数量, 有効期限などを登録

コンプライアンス違反の防止

- ✓ 実際にソフトウェアをインストールしているPCの台数を自動的に検出
- ✓ インストール数が保有数を上回った時や、有効期限が切れる前に通知メールを送付

ライセンスを適切に管理し、コストの増大やコンプライアンス違反を防ぎます

「パッチ適用は社員に任せている」「古いバージョンのソフトウェアを使い続けているPCがあるかもしれない」といった現状があると、サイバー攻撃を受けるリスクが高まります。Endpoint Centralは、一連のパッチ管理業務を自動化し、効率的かつ確実なパッチ管理を実現します。

豊富なソフトウェアのパッチ管理に対応



Windows, macOS, Linuxに加え、
850種類以上のアプリケーションのパッチ管理に対応

パッチ管理サイクルを自動化できる



脆弱性情報の収集からパッチ適用結果の確認まで、
一連のパッチ管理業務を自動化し、工数を削減

手間のかかるパッチ管理を自動化し、組織のセキュリティを強化します

OS

Windows: 11, 10, 8.1, 7

Windows Server: 2022, 2019, 2016, 2012 R2, 2012, 2008 R2, 2008

macOS: 12 – Monterey, 11 – Big Sur, 10.15 – Catalina

Linux: Red Hat Enterprise Linux, SUSE Linux, Ubuntu, Debian, CentOS, Pardus, Oracle Linux

アプリケーション

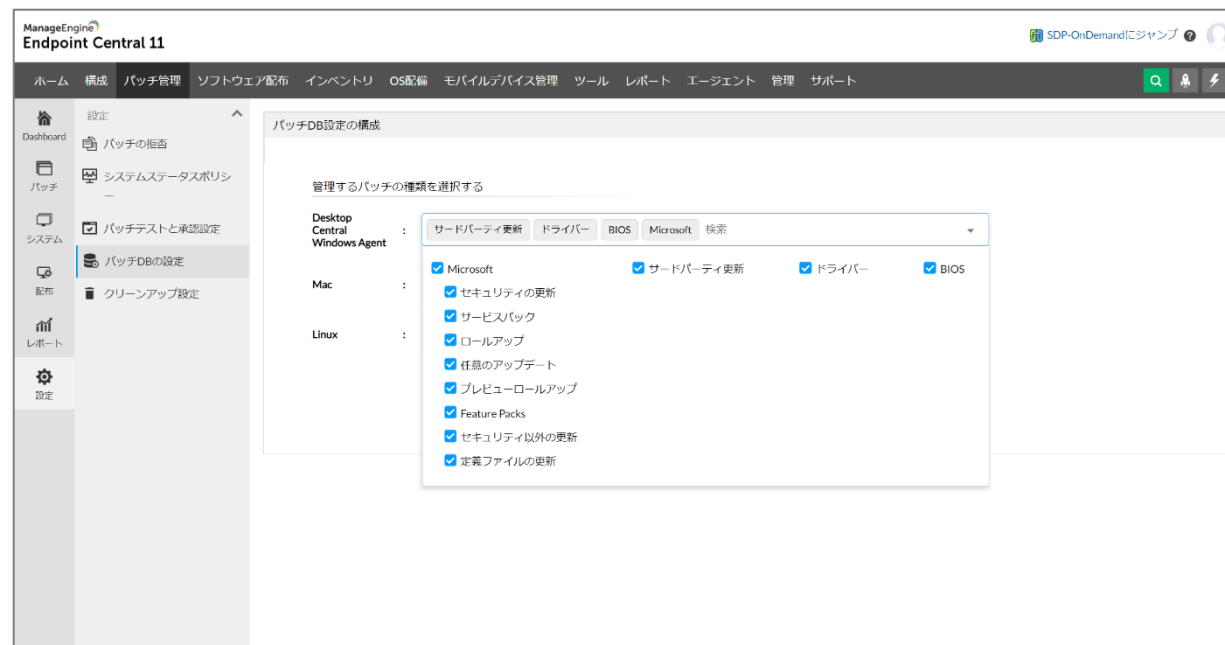
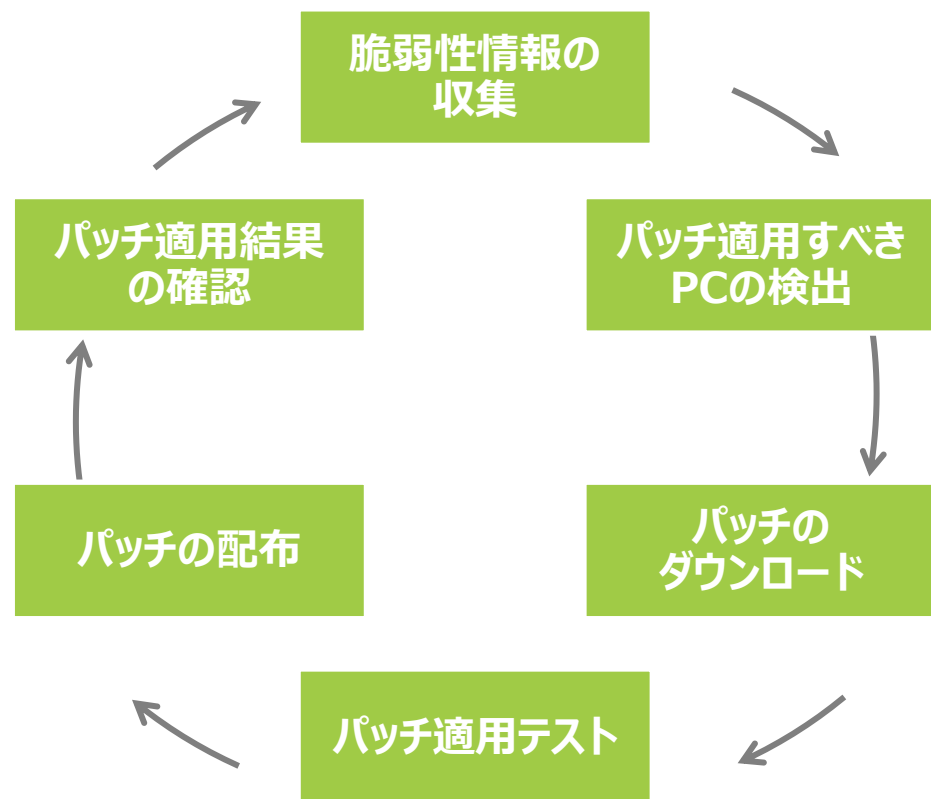
Microsoft製品: Microsoft 365, Office 2019, 2013, 2010

業務アプリ: Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe製品, Google ChromeなどのWebブラウザー

サーバー系アプリ: Apache, Bind, MySQL, OpenSSH, PostgreSQL, SQLite, Ruby, Python

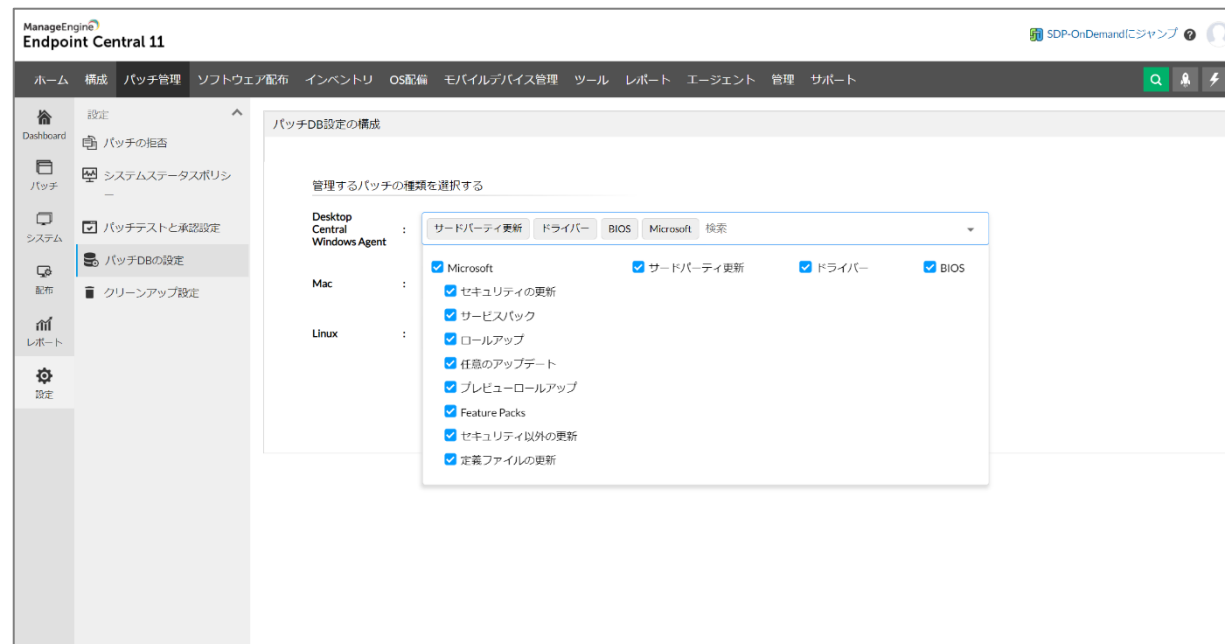
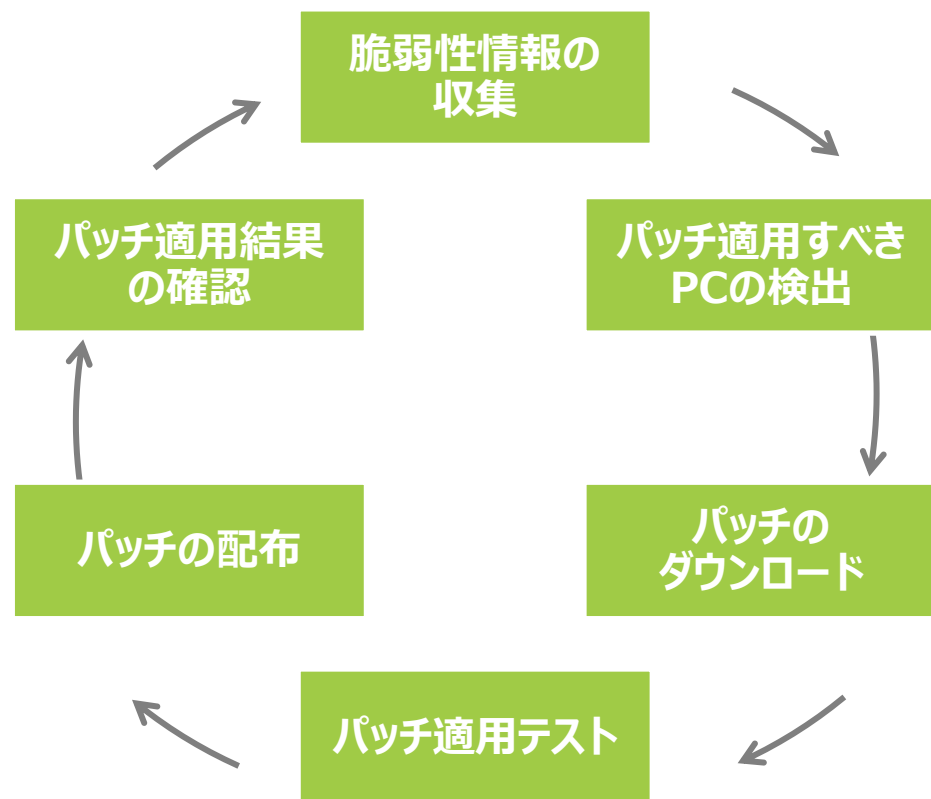
※最新情報は「[対応OS・アプリケーション一覧](#)」ページにてご確認ください

マルチOSと850種類以上のアプリケーションのパッチ管理をまとめて実施できます



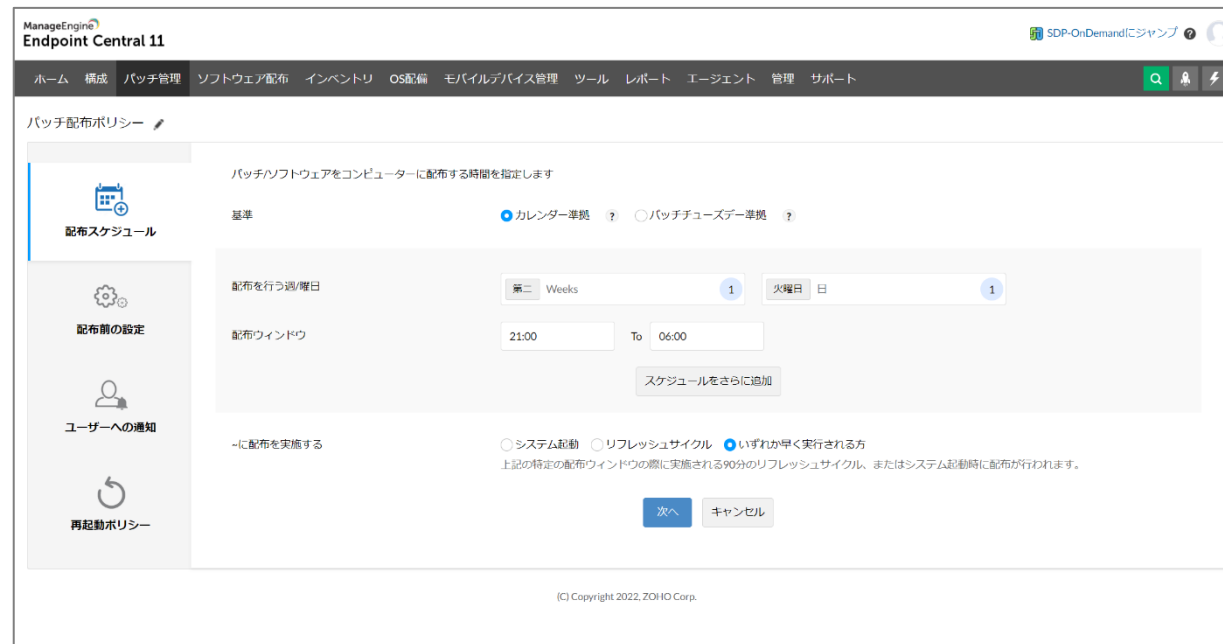
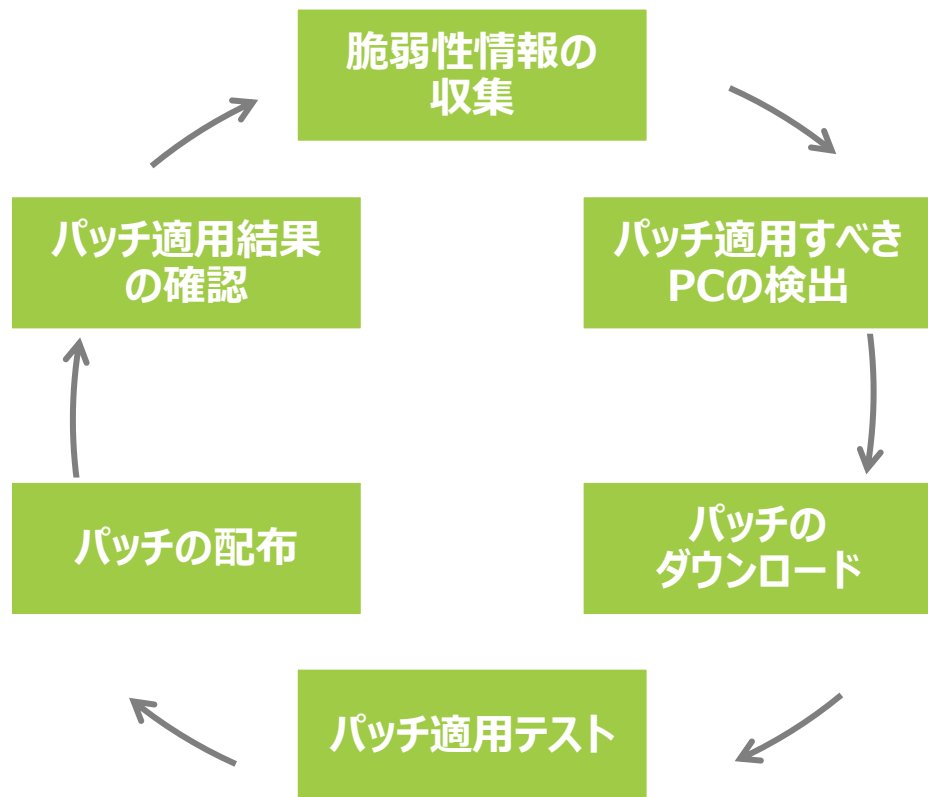
管理したいパッチの種類を選択するだけで、最新の脆弱性情報を毎日自動的に収集できる

一連の作業を自動化することで、管理者の工数削減・確実なパッチ管理を実現します



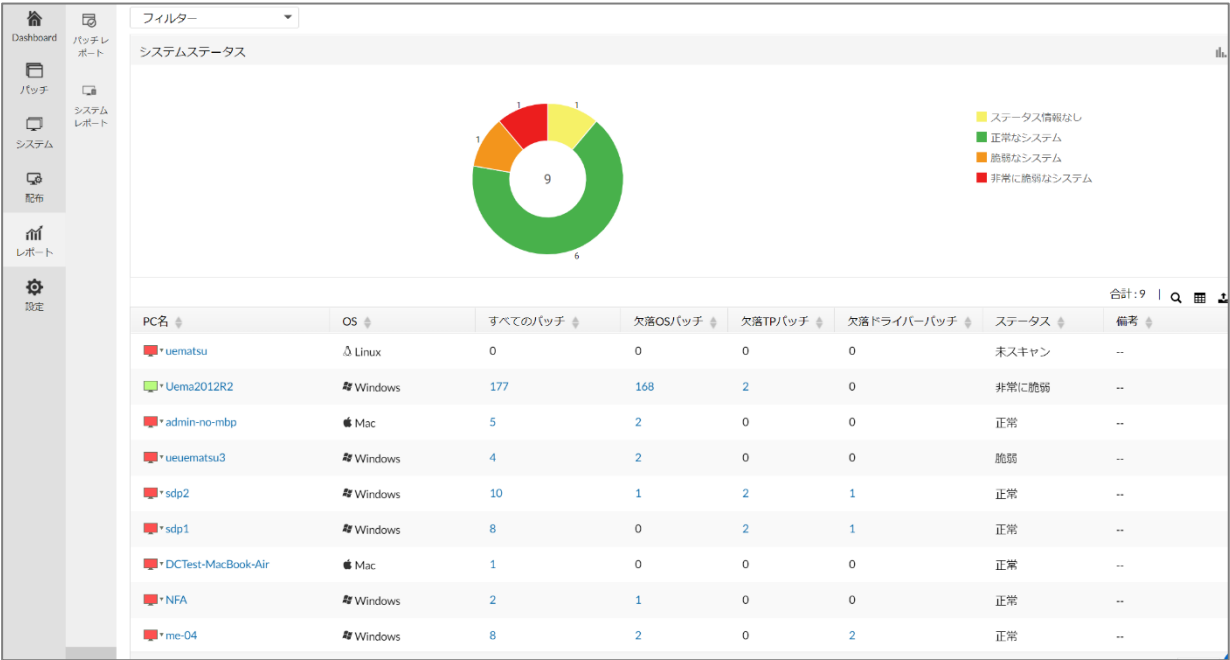
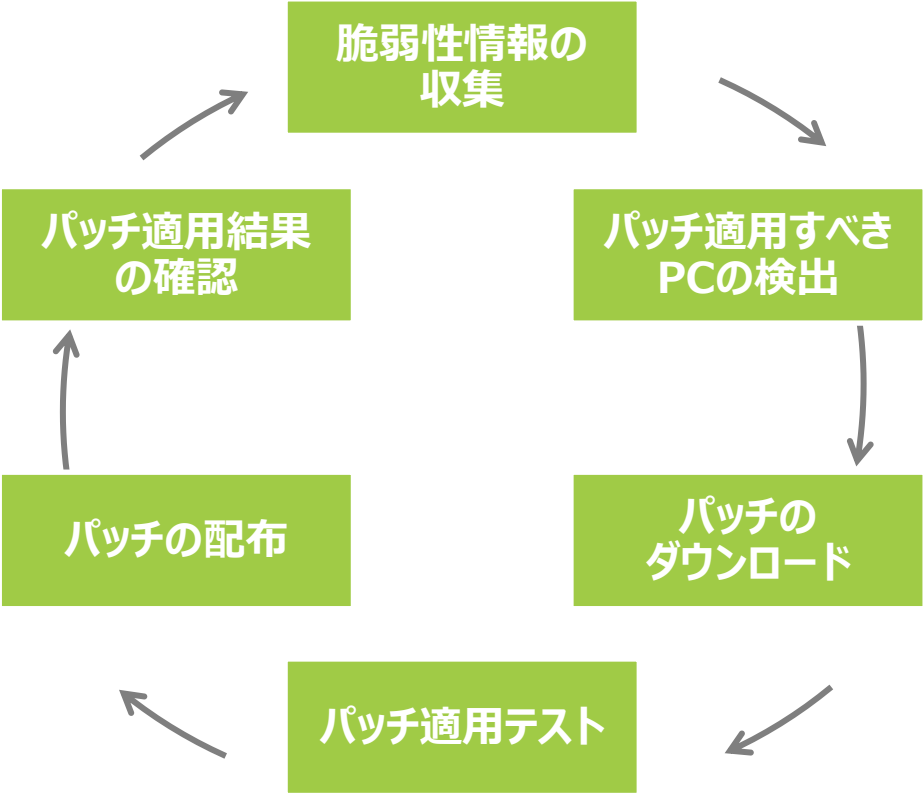
管理したいパッチの種類を選択するだけで、最新の脆弱性情報を毎日自動的に収集できる

JVNやニュースサイトから手動で脆弱性情報を集める手間がなくなります



✓ あらかじめ設定した日時にて、
指定のコンピューター群にパッチを自動的に適用できる

クラウド版ならテレワーク端末へのパッチ管理もインターネット経由で可能です



✓ 「非常に脆弱」「正常」といったコンピューターごとのステータスや、適用すべきパッチの数を確認できる

コンピューターごとのパッチ適用状況を一覧で確認できます

「社員が自由にソフトウェアをインストールしており、ウイルス感染が心配」「ソフトウェア利用申請の管理は手間がかかる」とお悩みではありませんか？ Endpoint Centralなら、ソフトウェアのインストール・アンインストールを一括で実施し、業務効率化とセキュリティ強化を実現します。



ソフトウェア配布で実施できること

ソフトウェア配布の効率化

- ✓ 管理中のPCにソフトウェアをまとめてインストール
- ✓ セルフサービスポータル経由でユーザー自身が自分に必要なソフトウェアをインストール

禁止ソフトウェアの設定

- ✓ 利用禁止に設定したソフトウェアがインストールされた時に強制的にアンインストール

セルフサービスポータルからは管理者権限なしでソフトウェアインストール可能です

ユーザーが自由にUSBデバイスを利用できる状態になっていませんか？ Endpoint Centralは、USBデバイス・Bluetooth・CDROMなどの利用を制限し、デバイス経由でのウイルス感染リスクを低減します。業務に必要な特定のUSBデバイスのみに利用許可を与えることもできます。

Windows構成 > USB制御

USB制御 (ユーザー)

構成の名前/説明

名前 * 説明の追加

ブロック/ブロック解除するデバイスを選択してください

❗ ワークフローを変更しました。この構成の適用は適切な報告やステータス追跡のため、既存のすべての構成を無効にします。詳細はこちら

デバイス種類	変更なし	ブロック解除 (すべてブロック解除)	ブロック (すべてブロック)
マウス	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> デバイスを除外する
ディスクドライブ ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する
CDROM	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する
ポータブルデバイス ?	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する
フロッピーディスク	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する
Bluetooth	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> デバイスを除外する
USBカメラ/スキャナー ?	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>	<input type="radio"/> デバイスを除外する
プリンター	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する
モデム	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> デバイスを除外する

 [こちらをクリックしてレポートを表示する](#)

USB制御で実施できること

USBデバイスの利用制御

- ✓ マウス, ディスクドライブ, CDROMなど、10種類以上のデバイスの利用を制限

特定のUSBデバイスの利用許可

- ✓ 業務に必要な特定のUSBデバイスにのみ、利用許可を与えることも可能

業務に必要ないUSBデバイスの利用を制御し、セキュリティレベルを向上します

「スクリーンセーバー未設定・設定済みのPCが組織内に混在している」など、ユーザーごとに異なる設定でPCを利用していませんか？
Endpoint Centralでは、組織内のコンピューターの様々な設定を管理者側で一元管理し、セキュリティレベルを統一することができます。



適用できる設定の一例

セキュリティ対策に

スクリーンセーバー, Windowsファイアウォール,
ファイル・フォルダの権限管理

業務の効率化に

スクリプトの配布, レジストリの追加・変更

※Endpoint Centralで管理できる設定は、
管理対象のコンピューターのOSごとに異なります

端末の設定を一元管理することで、組織のセキュリティレベルを統一します

「テレワーク中のユーザーのPCサポートが思うように進まない」「トラブルシューティングを効率化したい」とお悩みではありませんか？
Endpoint Centralなら、ユーザーの端末にリモート接続することで的確に状況を把握し、スムーズにトラブルを解消することができます。



リモートコントロールで実施できること

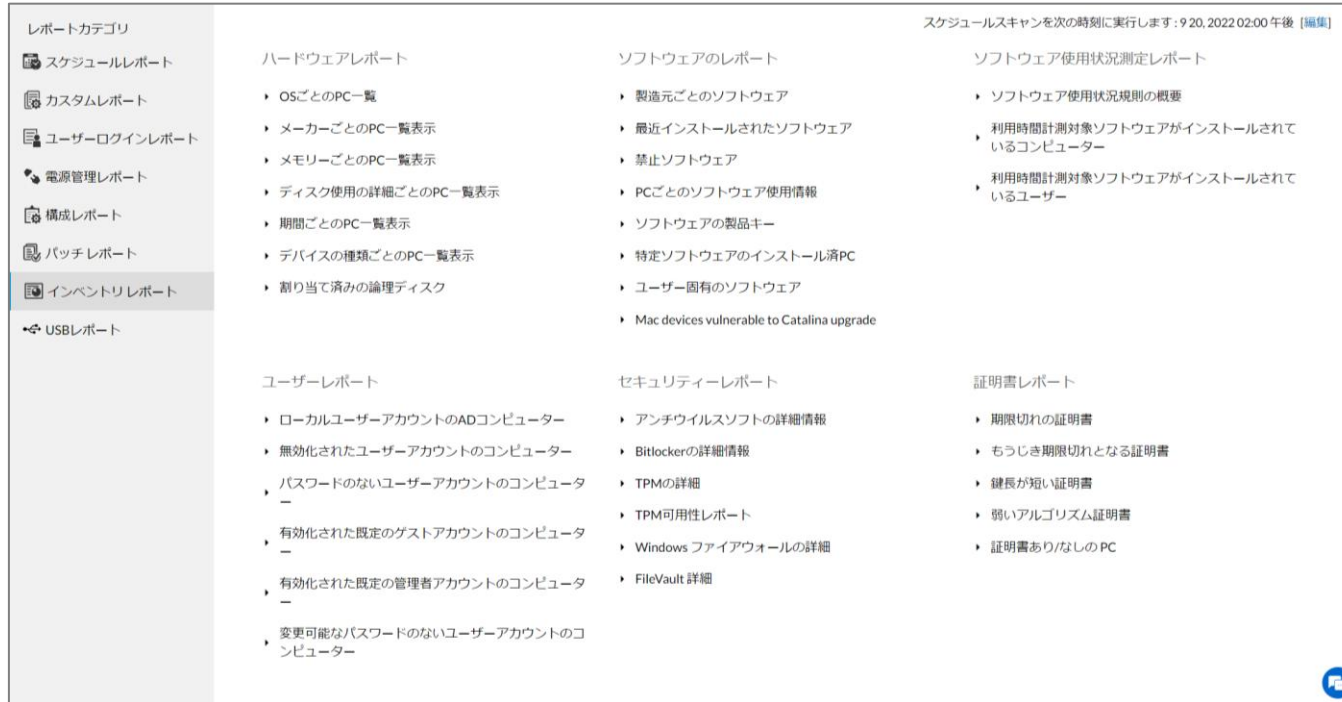
リモート接続

- ✓ ユーザーの端末にリモート接続し、遠隔からトラブルシューティングを実施
- ✓ ユーザーの画面のブラックアウトや、マウス・キーボードの無効化も可能

※システムマネージャー機能を利用して、遠隔からコマンドの実行やプロセスの停止を行うことも可能

遠隔地のコンピューターのトラブルシューティングも円滑に行えます

「監査や定例会議に必要なレポートの作成に時間がかかる」とお悩みではありませんか？
Endpoint Centralは、デフォルトで100種類以上のレポートを用意しており、ワンクリックするだけで簡単にレポートを作成できます。



作成できるレポートの一例

インベントリ情報把握に

OSごとのPC一覧, 最近インストールされたソフトウェア一覧, 保有ライセンス一覧

ユーザーの勤怠把握に

ユーザーのログイン履歴, システム稼働時間レポート

※定期的にレポートを自動出力し、指定のメールアドレス宛に送付することも可能

必要な情報をワンクリックで出力し、IT管理者の業務を効率化します

機能8 | モバイルデバイス管理 (MDM)

IT資産管理の効率化

セキュリティの強化

「クライアントPCとモバイル端末は別のツールで管理している」「端末紛失・盗難時の対策ができていない」といった現状はありませんか？
Endpoint Centralなら、iOSやAndroidなどのモバイル端末も1つのコンソールでまとめて管理し、セキュリティ対策を強化することができます。



MDMで実施できること

紛失・盗難対策

- ✓ 端末の位置情報の確認、リモートロック・ワイプが可能

インベントリ情報収集

- ✓ ハードウェア・ソフトウェア情報を自動的に収集し、IT資産管理台帳を作成できる

アプリの利用制限

- ✓ ブラックリスト方式でのアプリ管理や、アプリの一括配布が可能

PCと同様にモバイル端末も一元管理し、組織のセキュリティレベルを向上します

アジェンダ

- 1 IT資産管理・モバイルデバイス管理のよくある課題
- 2 Endpoint Centralの3つの特徴
- 3 Endpoint Centralの主要機能の紹介
- 4 参考情報

Endpoint Centralの特徴や機能を20分で紹介します

グローバルで

3万社を

超える組織が導入

本社導入実績



様々な業界、企業規模でご利用いただいている製品です

導入事例

導入事例

製品概要資料ダウンロード

統合エンドポイント管理

ManageEngine > 統合エンドポイント管理 Desktop Central > 導入事例

MYSTAYS
MYSTAYS HOTEL GROUP

株式会社マイステイズ・ホテル・マネジメント様

ユーザーもヘルプデスク担当も在宅で運用可能に / 3000台を超えるPCを少人数のIT部門で効率的に管理

» この事例の詳細を見る

JGC JGC GROUP

日揮ホールディングス株式会社様

英語版OS対応、使い勝手に優れた統合エンドポイント管理ソフトで、グローバル人材が使うエンジニアリング用VDIの環境を効率的に管理

» この事例の詳細を見る

SecureBrain

株式会社セキュアブレイン様

マルチOS、アプリケーションの脆弱性パッチも一元管理
サイバーセキュリティの専門企業が選んだIT資産管理ツール

» この事例の詳細を見る

ipet

アイペット損害保険株式会社様

マルチOS/アプリのパッチ管理工数を80%削減！
サーバー基盤を含む管理を実現する統合エンドポイント管理ソリューション

» この事例の詳細を見る

国内導入事例についてはこちらをご参照ください：https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/case-studies.html

国内導入事例はWebページに掲載しています

費用

オンプレミス版

年間ライセンス

通常ライセンス

Enterprise Edition

21.8万円/年～

サポート付

=ひと月あたり約18,200円～

- 1年間利用可能な製品ライセンスで、年間保守サポートサービスが含まれています。
- 1年ごとに年間ライセンス契約を更新します。

48.6万円～

初年度サポート付

- 無期限の製品ライセンスに、初年度のみの年間保守サポートサービスが含まれています。
- 2年目以降は1年ごとに年間保守サポートサービス契約（11万円～）を更新します。
- 4年以上利用する場合は、価格が抑えられます。

クラウド版

年間ライセンス

Enterprise Edition

21.8万円/年～

サポート付

=ひと月あたり約18,200円～

UEM Edition

33.2万円/年～

サポート付

=ひと月あたり約27,700円～

Security Edition

38.3万円/年～

サポート付

=ひと月あたり約32,000円～

- 1年間利用可能な製品ライセンスで、年間保守サポートサービスが含まれています。
- 1年ごとに年間ライセンス契約を更新します。

詳細な価格表についてはこちらをご参照ください：https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/pricing.html

ご要望に応じて、お好きなライセンス体系をお選びいただけます

ライセンスの課金対象

PC・サーバー・モバイルデバイスの台数



Endpoint Centralで管理したい
エンドポイントの台数

追加ユーザーの人数



Endpoint Centralを操作する
管理者ユーザーの追加人数

- 上記の数を明確にしたら、必要な台数・人数まで利用できるライセンスを選びます。
- 詳細なライセンス情報・価格表は「[Endpoint Centralの価格](#)」にて公開していますので、ご参照ください。
- ご不明な点がございましたら「[営業窓口へのお問い合わせ](#)」を経由してご質問ください。

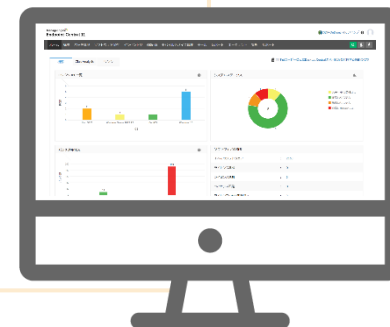
Endpoint Centralのライセンス価格は、「管理台数」と「管理者ユーザー数」で決まります



無料ですべての機能が試用できます

https://www.manageengine.jp/products/Endpoint_Central/download.html

- 試用開始後**30日**経過すると無料版に切り替わります
- **クラウド版／オンプレミス版**どちらもご試用可能
- 評価版ご利用期間中に限り、**技術サポートを無料**で提供



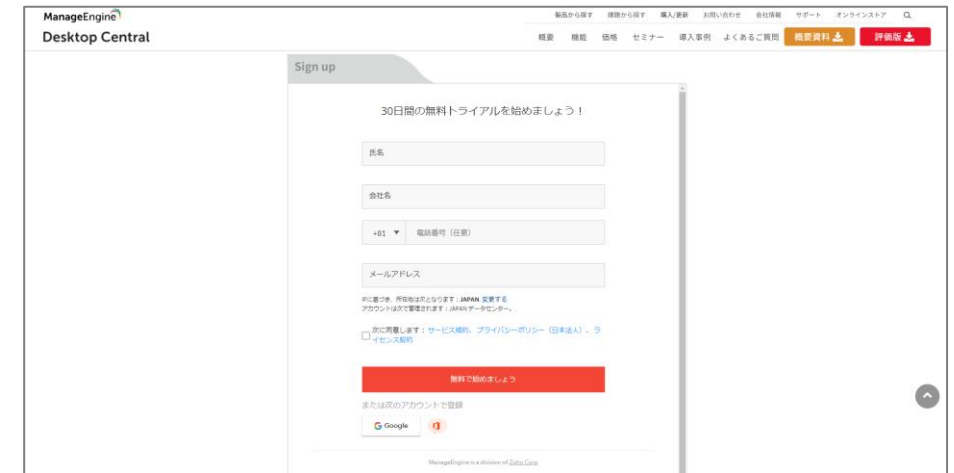
お気軽にお試ください

まずは製品Webサイトへ



- ✓ サイト内の赤色ボックス「評価版」をクリックすると、評価版の案内ページに飛べます

アカウント作成だけで利用開始可



- ✓ クラウド版は特に手軽。お名前などの基本情報を入力するだけで、すぐに製品を試せます

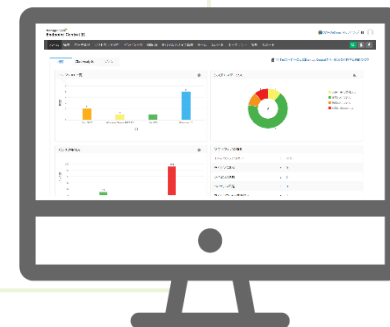
お気軽にお試ください



ご要件に沿った説明を受けられます

https://www.manageengine.jp/online_meeting/

- 製品担当者による相談会を**無料**で実施いたします
- パソコン画面を共有するため、**実際の画面や使用感**がわかります
- 気になる点やご不明点について、**その場で解消**いたします



お申込みフォームよりお気軽にご連絡ください

お問合せ先

ゾーホージャパン
株式会社



ManageEngine 営業担当

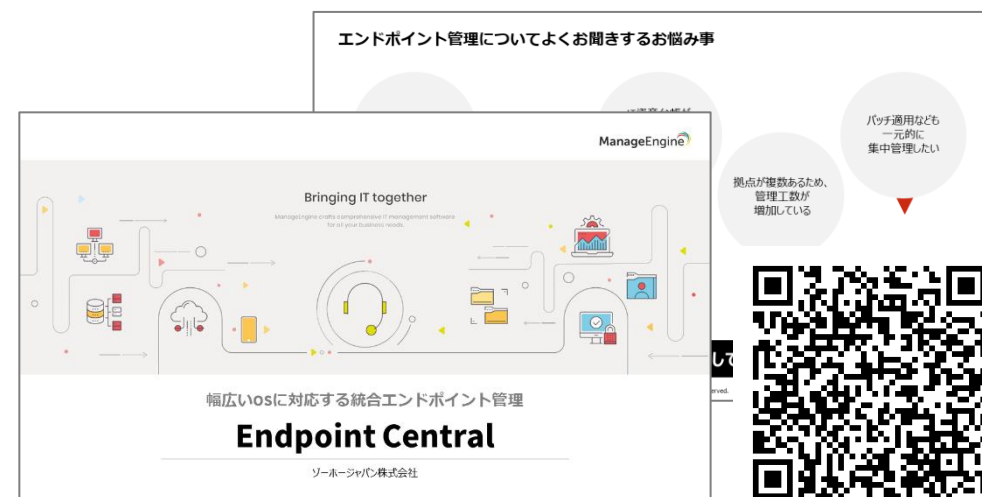
神奈川県横浜市西区みなとみらい三丁目6番1号
みなとみらいセンタービル13階

TEL : 045-319-4612

Email : jp-mesales@zohocorp.com

<https://www.manageengine.jp/>

特徴がわかる 概要資料



IT資産管理に関する現在の課題やお悩みごと等、ぜひご相談ください